

フィリピン共産党（PKP-1930）からの連帯メッセージ

社会主義だけが人類を野蛮から、地球の生態を破壊から救うことができる

同志の皆さん

フィリピン共産党(PKP-1930 [Partido Komunista ng Pilipinas])は、東京において1917年ロシア十月大社会主義革命(GOSR)103周年記念集会を開催される活動家集団思想運動の運営委員会、会員、支持者の皆さまに厚い連帯のご挨拶をお送りします。

思想運動が毎年革命記念集会を開催されるとともに、昨年4月には、偉大なウラジーミル・イリイチ・レーニン生誕150周年記念事業において（SOLIDNETを通じ）世界中のマルクス・レーニン主義政党・組織と協力してくださったことに対し敬意を表します。

ロシア十月大社会主義革命は、今日においてもなお現代史における最も重要かつ決定的な事象であり、資本主義体制の打倒と人類の社会主義への移行という新たな歴史を切りひらくものです。レーニンと共産党は、理論としての社会主義を、ソビエトを通じての労働者権力の構築、生産手段の集中化と社会的な管理、国家による科学的な計画の策定、旧ツァーリ帝国支配下にあった多民族集団における異性間および民族間の平等の確立、そして君主制、寡頭制、独占資本家層や富裕寄生層等の廃絶によって実在する制度としてつくりあげたのです。

ソ連の初期社会主義体制が達成した社会制度等における輝かしい前進は他国の人びとを惹きつけ、なかでも帝国主義の植民地で呻吟する労働者・人民を大きく勇気づけました。革命に触発され、わが国においても1930年8月26日にフィリピン共産党(PKP-1930)が創立されました。また、革命から13年目の1930年11月7日には、公然活動を開始しました。したがって、今年の11月7日、わが党は公然活動開始90周年という節目を迎えるのです。われわれは、米国の植民地主義、日本の軍国主義、また戦後の新植民地主義に対する闘争のなかで命を落としたおおぜいの同志や英雄を称えたいと思います。

また、今年の11月7日の記念事業においては、社会主義への輝かしい道を切りひらき、外国の介入を打ち破り、ドイツのナチズムと日本の軍国主義を粉砕するための闘争において最大の貢献をし、戦後には社会主義共同体を組織し、強化し、帝国主義とのあいだで戦略的平等を達成したソ連人民が払った多大な尊い献身に対し心からの敬意を表すこととしております。

今般の新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、帝国主義段階にある世界資本主義が全面的に腐敗していることが暴露されています。これまで資本主義は、必要不可欠な保健衛生と教育サービス、十分な食料と安心できる住まい、そして失業手当をはじめとする暮らしと仕事に必要な基本的諸条件を整えたことがありません。今日、失業、飢餓、ホームレス

が増加しているのは、新型コロナウイルス感染症の流行だけに限らず、それ以前から世界中の資本主義諸国が新自由主義的経済政策——緊縮財政、民営化、ビジネスの規制緩和、放埒な利潤追求およびグローバリゼーション——をとりつづけてきたためです。

いかに資本主義が野蛮であるかは、新型コロナウイルス感染症が流行するなかで労働者の諸権利と人民の暮らしの安全が崩壊しつつある一方、富裕層および世界的独占企業の富だけが犯罪的に増大していることから容易に見てとることができます。したがって、世界中のマルクス・レーニン主義者と労働者・人民は、利潤へのあくなき追求をやめない帝国主義者が、感染収束後においてもなお人間の尊厳を奪い、地球を破壊してきた犯罪的な経済・政治システムの正当化を図ろうとする試みを暴露し、それと闘わなければなりません。資本主義は本質的に国内や地球規模で不平等を生み出すものであるにもかかわらず、これまで自由市場的「民主主義」（すなわち新植民地主義）を拡大することを口実に諸国を不安定化させ、諸地域を戦争や紛争に陥れつづけてきたのです。

ロシア十月大社会主義革命は、人間による人間の搾取を永続化する資本主義体制から脱却する道を指し示しつづけています。世界中での社会主義を実現する闘争だけが、人類を野蛮から、そして地球の生態を破壊から救うことができるのです。

わたしたちは、11月7日の東京におけるロシア十月大社会主義革命103周年記念集会の成功を心から祈念しております！

同志愛をこめて

2020年10月27日

フィリピン共産党（PKP-1930）

議長 アントニオ・E・パリス

【翻訳・木田誠也】